アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No.189/2022 年 10 月

【1】一種研開催報告(10月)

10月の一種研が岐阜市文化センターで開催されました．A・P研チュートリアル講演1件，A・P研アンテナの歴史委員会特別講演1件，IEEE AP-S Nagoya Chapter特別講演，学生によるポスター講演39件，企業によるポスター講演15件を含め71件の講演がありました．

写真1．チュートリアル講演および特別講演の会場

（1）A・P研チュートリアル講演：NTTの佐々木元晴氏より，周波数特性を考慮した多周波数帯における電波伝搬モデルについて講演いただきました．屋内見通し，屋内フロア跨り，ストリートマイクロセル，都市マクロセルなどにおける測定結果とシミュレーション結果を比較しながら，周辺構造物と伝搬損失の周波数特性との関係について解説いただきました(写真１)．

写真2．ポスター発表

（2）A・P研アンテナの歴史委員会特別講演：NECプラットフォームズの倉本晶夫氏より，同氏の40年にわたる広帯域アンテナの研究開発経験に基づき，各種広帯域アンテナの構造と特性を整理して解説いただきました．UWB用アンテナ開発から始めた各種アンテナの研究成果を2001年から2022年まで連続して大会で発表されていたことには驚きました．

写真3．　ポスターセッションの様子

（3）IEEE AP-S Nagoya Chapter特別講演：東京大学の池田一得先生より，「スーパーカミオカンデによる素粒子と宇宙の探求」と題して，ニュートリノ検出器の構造や動作原理についてお話いただきました．また，スーパーカミオカンデの歴史や次の観測目的に向けた改良手法，さらには星の変遷など，難しい話を(私のような凡人にも)わかりやすく解説いただきました．非常に興味深い内容であり50分の講演があっという間に感じました．

（4）ポスターセッション：昨年10月に引き続き，学生によるポスターセッションを開催しました．昨年はオンラインでしたが，今回は対面で実施し，多くの学生さんに発表を経験して頂きました（写真２）．昨年は学生さんに，“通常のポスターセッションのように発表してください．”とお願いしても，通常を経験したことがないので説明になっていないとの指摘がありました．一方で，今回が対面発表は初めてという学生も多く，やっとコロナが落ち着いてきたなと実感しました．すべてのポスタープレゼンに対して，常に“お客さん”が複数ついて，ものすごく活発なポスターセッションとなり大盛況となりました（写真３）．

（5）企業によるポスター講演：15社の企業や研究機関により，それぞれの組織における事業内容や研究内容が紹介されました．また，当日のポスター発表に加えて，企業活動や採用情報の動画やHPリンクなどを事前にA・P研のHPに掲載しました．ちょうど就職活動中の学生も多く，企業の活動を把握する良い機会になったかと思います．

【2】アンテナ・伝播研究専門委員会優秀ポスター発表賞受賞者

10月一種研の学生によるポスター発表者の中から優秀発表者に対し，優秀ポスター発表賞が授与されました．当日は，企業の方，専門委員の方々に審査いただき，厳正なる選考の結果下記8名が表彰されました(写真4)．受賞者の皆様，おめでとうございます．今後ますますの活躍を祈念します．

高橋莉玖 君 （新潟大），上村 彬 君 （東京農工大），
勝又 敬 君 （岩手大），山口莉香子 君 （東工大），
青木稜吾 君 （東北大），加藤雅也 君 （新潟大），
吉田正樹 君 （同志社大），池田彰宏 君 （福井大）

写真4．優秀ポスター発表賞受賞者

【2】アンテナの歴史見学会開催（依佐美送信所記念館）

10月21日にアンテナの歴史委員会主催で依佐美送信所記念館見学会を開催しました．参加者は午前9時半に刈谷駅に集合し（遅刻1名），貸し切りバスで現地に移動しました．

依佐美送信所は，もともとは高さ250mの鉄塔8基を備え，長波を主とした世界最大級の送信設備でしたが，1996年頃に鉄塔の大部分は解体され，現在は鉄塔の土台の一部が記念として残されているのみです．解体前は，東海道新幹線から見えましたが，少し寂しい感があります（写真5）．

解説員（ボランティア）の方は，我々がISAP2012のソーシャルツアーで訪れたことを覚えているとのことでした．10年前にお会いしたことがあると考えると，ちょっと嬉しい気分になりました．

写真5． 依佐美送信所記念館見学会

【4】副委員長の戯言

◆人生は横軸ログスケール

10月も半ばを過ぎ，今年も残り少なくなりました．卒論，修論の追い込みに向け学生は尻に火が付く頃ですが，教員としてもハラハラし始める時期です．

A・P研からのお知らせNo.26(2008年6月)に金沢工業大学の牧野滋先生が，最近の人間は精神年齢が成長するのが遅く感じられることに対して「人間の精神的成長は寿命で規格化すると一定である.」という説を述べられています．これに対し，No.120(2017年2月)に同志社大学の岩井誠人先生が「時間進行脳クロック速度相対説」を唱えられています．これは，「”若いとき人間は高速クロック=周りの時間進行が相対的に遅い”．それに対して，”年とると低速クロック=時間進行が早い”」という理論です．今回，もう一つ別の理論を展開したいと思います．

若い時は時間が長く感じるのに，たしかに年齢を重ねるにつれ年月があっという間に過ぎ去るように感じます．一方で，（岩井先生が書かれているように）1分とか短時間の時間感覚は変わりません．この理由は，私としては「記憶力低下が主要因」だと考えます．つまり，若い時は身の回りの出来事をよく覚えているために，1カ月とか1年とかが長く感じます．たとえば小学生の6年間などは，永遠に続いたような感じがしました．一方，最近は，昨日何食べたかよく覚えていないし，先週何やったかはスケジューラを見ないと思いだせないくらいです．さらに，飲み会があると，1次会，2次会は記憶力がしっかりしているので，どんな会話や議論をしたか覚えています．しかし，3次会，4次会になるとアルコールが回り記憶力が低下するために，2時間お店にいても，何を話したかよく覚えていないときがあります．さらに症状が進行すると，どの店に，だれと行ったか，お金を払ったかすらも覚えていないときがあります．しかし，朝起きると，ちゃんとお風呂に入って，歯磨きもした「形跡」があり，その時点ではしっかりしていたことが「推察」されます．

長くなりましたが，年齢を重ねるにつれ時が経つのが早く感じるのは記憶力の低下であり，まるで感覚的に時間軸がログスケールのようです．そして我々はログスケールの上を等速度で移動していると考えます．この理論を「人生は横軸ログスケール」と呼びたいと思います．

（牧野先生，岩井先生に負けず，暴言でした.）

〈問い合わせ先〉
アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長　藤元美俊（福井大学）
E-mail：ap_ac-chair@mail.ieice.org（A・P研執行部のメールアドレス）
AP-NET：A・P研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて
A・P研HP：https://www.ieice.org/cs/ap/